

58

ポンペ・ファン・メールデルフォールトと 牛痘種痘（第2報）

松木 明知

弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座

昨年¹⁾の学術大会で、天理図書館に所蔵されているポンペの牛痘接種に関する小冊子²⁾は出島で製版され、長崎の江戸町で印刷されたとする天理図書館司書の神埼氏の意見に従った。これに対して長崎の相川忠臣氏から冊子表紙の記述通り江戸で再版されたとすべきとのご指摘があった。学会終了後、改めて神埼氏に尋ねたところ、活字、製版の研究者は江戸で再版されたと考えているとして氏の前説を修正された。ポンペの医務報告にも本書は再版されたことを示唆する記述がある。したがってオランダ語の原書は出島で印刷されたいわゆる初版と江戸で印刷された再版の2種があることになる。初版は発見されておらず、国内に現存する2冊は共に再版である。

これまで7種の翻訳が知られているが、箕作阮甫の「種痘略観」には「日本 長崎排刷 一千八百五十八年」、八木称平の「散華小言」には「紀元一千八百五十八年 於日本出島館版行」とあって、翻訳に初版本が使用されたと考えられる。一方建部 寧の「牛痘小考」には「紀元千八百五十八年 於日本出島 発梓 安政五年 江戸翻刷」とあって翻訳に再版本が使われたことが理解される。生田安宅、葛野経良、高橋 純、柳川春三の訳にはこのことについての記述はない。

さて7種の訳文の中でどれが最も正確であるかは決定することは困難であるが、「真性天然痘の歴史」の末尾の文章を比較する。句読点は演者、異体字は常用漢字に直した。原文のルビは省略。

松木 訳：一方、北アメリカの全域でこの病気のため人口が減少した。この病気によって引き起こされた恐るべき破壊の証拠を我々に与えない地域は存在しない。

生田 訳：北亜米利加ニ於テハ全国死亡殆ント子遺無キニ至レリ。是れ亦、此疾ノ驚懼スヘキ事ヲ示スナラン歟。

葛野 訳：「北アメリカ」国名 ニテハ全国此病ノ為ニ遺民ナク、然ルノミナラス、一国モ存在する事ナシ。

高橋 訳：北亜墨利加ノ全州モ之カ為メニ損害セラルル者少カラス。一ツモ此病状ノ恐懼スヘキ事ヲ告ケサル国ハアラス。

建部 訳：然レ共、北亜墨利加全国ニ於テハ、僥倖ニシテ此病ヲ免レタリ。其他諸国ニ於テ之ニ死セシ者無キニ非ス、

箕作 訳：若夫³⁾、北弥利加にてハ、一地方の人盡く痘に沾て死し嚙類なきに至れり。乃至一国も痘瘡なきの地なく、其地は悉く痘のために畏るべき惨毒に遭たる左証なき者なり。

八木 訳：北亜米利加洲ハ、此病ヲ以テ全国ノ人民ヲ損傷ス。其他万国、此病ヲ以テ人民ヲ荒蕪セザルハナシ。

柳川 訳：且嘗テ、北米利幹ニ於テハ人民子遺無ク、其国支撐スル事能ハザリシ事アリ。此時若シ却害ヲ免レタル者ノ存スルアラバ、病毒ノ民ヲ塵ニセシ景況ヲ伝語スル者アラム。

上述を見れば八木の訳が比較的正確といえよう。他の部分の訳についても検討する。